

1 単元 自分の生き方に迫る ～興味のある職業の人へのインタビューを通して～(本時 3 / 13)

2 本時の学習指導・・・習得→基礎的活用

(1) 目標

- ・自分の考えを広めたり深めたりするインタビューのコツを理解することができる。
(話す・聞く能力)

(2) 本時の視点

インタビューとは、知りたい内容について直接話を聞き出すことである。インタビューは、話し手の「言葉」そのものが聞き手に大きな影響を与えると考える。したがって、インタビューでは表面的な話や形式的な話にならないように、内面的な本音の言葉を引き出すことが重要である。そのためには、インタビューの目的を確認することや事前の準備の重要性、尋ねるときの方法、聞くときの心構え、話を広げたり深めたりするための方法を学習する必要がある。

本学級の生徒は、12月に3日間職場体験を行った。職場体験の目標は、自分の興味のある職業を体験したり、働いている人に触れ合うことで、自分の持ち味を知り、今の自分を見直し、今後の生き方に生かすことであった。体験に行く前には、働いている人にインタビューをしてみようと投げかけ、各自が質問の内容を決めた。体験後には、インタビューしたことをすべて書き出し、自分のインタビューの仕方を振り返った。体験中のインタビューであったため、仕事で忙しそうにしている体験先の人にインタビューできなかった生徒もいた。インタビューした生徒からは、「考えていた質問が同じような答えが返ってくる質問だったから困った」「もっとよく体験する職業について調べていたら、もっと深まった質問ができたのに残念だった」「もっと聞きたいことがあったけど、どう聞けばよいかわからなかった」などの感想が聞かれた。来年度6月には修学旅行の東京分散学習でもう一度、自分の興味のある職業に就いている人に会うチャンスがある。職場体験で目標に迫るインタビューができなかった経験を生かし、次につなげてインタビューの学習をすることで、自分の知りたいことを本音の部分まで引き出し、今までの自分の考えを広げたり深めたりし、これからの自分の生き方に迫らせたいと考えている。

本時は、「習得した知識や技能を活用して課題を解決することができる生徒(主題ねらい①)」を目指す。そのため、学習課題を『自分の考えを広めたり深めたりするインタビューのコツは何か』とし、まずは、自分の職場体験でのインタビューを4人グループになって振り返る。そして、4人のインタビューを比較して、よかった点をまとめ、インタビューでは「質問の内容」と「質問の順番」が重要だと**気づかせる**。次に、成功したインタビュー例と失敗したインタビュー例を提示し、自分の職場体験でのインタビューと比較することで、インタビューのコツに**気づかせ**、コツについて自分の言葉で**言語化**させる。その後、見つけたコツについて全体で共有する。最後に、本時に習得したことと自分の職場体験でのインタビューを**関連づけて**、自分のインタビュー内容を書き直すことで、インタビューのコツについて**再定義**する。

本時に習得したインタビューのコツを東京分散学習でのインタビューに活用し、会いたい人から得たインタビュー内容が生徒たちの今後の生き方に迫ることを期待する。

(3) 準備

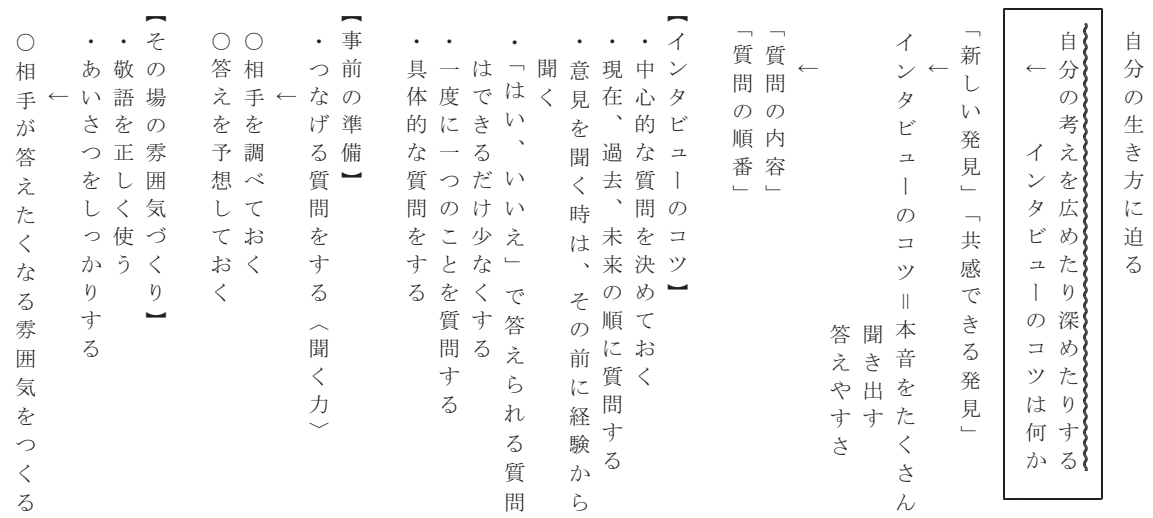
- ①生徒 職場体験でのインタビューの振り返り
- ②教師 座席表、インタビュー例、ワークシート

(4) 展開

時間	学 習 活 動	教 師 の 支 援 ◆評価の視点・方法
	1 職場体験でのインタビューを振り返る。 ○インタビューの目標を確認する。 ○4人グループになり、職場体験でのインタビューのよかった点を確認し合う。 ・「それはどういうことですか」から次につながる質問をしていてよかった。 ・「現在のこと」を聞いているところが覚えているから答えやすくてよかった。	・どんなインタビューがよいのか意識させるため、自分の考えを広めたり深めたりするには、「新しい発見」「共感できる発見」がなくてはならないこと、そのためには話し手が本音でたくさん答えやすいインタビューをしなくてはいけないことを伝える。 ・各グループで職場体験でのインタビューのよさを見つけやすくするため、「答えやすさ」に着目して振り返るよう促す。

1 0		<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明確にした発言をさせるため「〇〇から・・・よかった」という文型を示す。 ・学習活動2の「インタビューのコツ」を見つける視点を明確にするため、答えやすいインタビューにするには「質問の内容」「質問の順番」に着目することを強調する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">自分の考えを広めたり深めたりするインタビューのコツは何か</div>		
3 0	<p>2 各自がインタビュー例と自分の職場体験のインタビューとを比較し、コツを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの中心的な質問があるところから最初に中心となる質問を考えるとよい。 ・現在、過去、未来という順番に質問しているところから答えやすくしてよい。 ・あいまいな質問は、具体的な質問にした方がよい。 <p>3 見つけたコツを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心的な質問を決めておく ・現在、過去、未来の順に質問する ・意見を聞く時は、その前に経験から聞く ・「はい、いいえ」で答えられる質問はできるだけ少なくする ・一度に一つのことを質問する ・具体的な質問をする <p>4 職場体験のインタビューを書き直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、仕事をしていていちばんうれしかったことはどんな時ですか。 <p>→お客さんがおいしかったと言ってくれた時です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・では、おいしいと言ってもらえるように努力されていることはどんなことですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くのインタビューのコツに気づかせるために、よいインタビュー例の後に失敗例を配付する。 ・説得力のある発言にするため、「〇〇から・・・よかった」「△△は、・・・の方がよい」という文型にまとめるよう指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューのコツを確実に習得させるため、ポイントをおさえて板書する。 ・インタビューのコツだけでなく、事前の準備に必要なこと、答えたくなる雰囲気づくりに気づいた意見も出た時には板書する。 <ul style="list-style-type: none"> ・確実に習得させるため、中心的な質問を考えるように指示する。また、学習の進みが早い生徒には話し手の答えも想像して考えるように促す。 ・学習が滞っている生徒には、板書を参考にして直せそうなところを指摘する。 <p>◆インタビューのコツを理解することができたか、ワークシートに書かれた職場体験のインタビューを書き直したのから判断する。 B；インタビューのコツを意識して一つでも自分のインタビューを書き直すことができた。</p>
4 5		

3 板書計画



生き方に迫る

～興味のある職業の人へのインタビューを通して～

高浜市立南中学校 小山 貴央

1 はじめに

本校の2年生（現3年生）の生徒は、とても素直な生徒が多い。授業にも熱心に取り組み、挙手率も高いが、学力には十分結びついていない。非常に明るい生徒たちではあるが、その反面、幼さの残る部分も多くある。スピーチの授業を行うと、なかなか文章が書けず、また書いても本番になるとその原稿を読むばかりで、自分の思いや考えを相手に伝えるという本来のスピーチの目的まで達しない生徒が多い。

本校では、2年生の12月に総合的な学習の時間で職場体験を行う。そこで実際に社会に出て働くことの体験をするとともに、働く人へのインタビューをおこなってきた。そのインタビューの後に生徒に振り返りを書かせた（資料1）ところ、「もっと詳しくこの職につくためにどんなことをしたのか、中学校のうちからどんなことができるのか話を聞いているときに質問できればよかったなと思いました。」と書いた生徒がいた。このことから、インタビューをするものの、あまり計画的ではなく、自分の本当に聞きたいことが聞けていないということが分かった。さらに、「もっと積極的に話しかけて質問すればよかった。」という記述から、インタビューへの意欲はあるが、面識のない人たちに対して消極的になってしまっている部分もあることが分かった。こうした生徒たちに、その人の生き方に迫り、自分の生き方に生かすことができるようなインタビューができるようになってほしいと考えた。

(資料1) 職場体験の振り返り

もっと詳しくこの職につくためにどんなことをしたのか、中学校のうちからどんなことができるのか話を聞いているときに質問できればよかったなと思いました。

よかったなと思いました。もっと積極的に話しかけて質問すればよかった。

はい、たはなと用心しました。

2 主題設定の理由

高浜市立南中学校の主題研では「生徒の学びを深める授業の創造～活用型授業を取り入れた学習活動を通して～」をテーマに、「習得・活用・探究」の学習プロセスを意識し、言語活動を中心とした生徒の学びを深める授業を研究している。その中で特に「活用」に着目し、知識のより確実な定着をねらった「基礎的活用」と新たな知識や技能を獲得する（発見する・創造する）「発展的活用」を取り入れた単元を構想することを目指している。このテーマを受けて、本校の国語科では「習得」を「活用に必要な知識技能を身につけること」と定義した。また、「活用」を「習得した知識を生かして教師から与えられた問題に取り組むこと」とし、「探究」を「習得した知識を生かして、自ら見つけ出した問題に取り組むこと」とした。

「1 はじめに」に書いた生徒の実態をふまえ、「習得」「基礎的活用」「発展的活用」のサイクルを生かした指導を行うことで、より効果的なインタビューの方法と、それを生かして人の生き方に迫り自分の生き方に生かす力を育むことを目指して本主題を設定した。

3 研究の構想

(1) 研究の目標

インタビューの方法を効果的に習得・活用させる指導のあり方を明らかにする。

(2) 目指す生徒像

- 1 自分の考えを明確にして、職業選択に対する自分の考えが深まったり広まったりする質問の構成を考えて話すことができる生徒
- 2 自分の考えと比べながら、次の質問につながるように話の要点に注意して聞くことができる生徒

(3) 仮説と手だて

〈仮説〉インタビューの仕方を自分たちで考え、その練習をすることで、インタビューの仕方を習得し、活用につなげることができるのではないか。

- 手だて1** インタビューのコツを探すときに、自分のインタビューと教師の用意したインタビュー例を比較させる。
- 手だて2** インタビューの仕方を、手順を追って練習し習得させる。
- 手だて3** 基礎的活用の場面（校長先生へインタビュー）を意図的に入れ、その振り返りをする。

4 実践

(1) 手だて1「インタビューのコツを探すときに、自分のインタビューと教師の用意したインタビュー例を比較させる」について

前ページの資料1から、生徒たちはインタビューをもっと上手にできるようになりたいと考えているが、どのようにしたらよいかには気付いていないことが分かる。

そこでまずは、「どのようなインタビューが“上手なインタビュー”か」を生徒たちに考えさせる必要があった。そのために生徒が行ったインタビューと教師で

(資料2)用意したインタビュー例

平 今日はお時間いただき、ありがとうございます。今、総合の学習の時間に、興味のある職業の人にインタビューをして、自分の生き方に迫るという学習をしています。日比野先生は現在は学年の副主任として、担任の先生方の中心となって学年をリードされています。毎日いろいろな思いをもって仕事をされているのだと思います。詳しくお話を伺いたいと思います。よろしくお願います。

平 まず、最初にお聞きしたいことは、教員になられて十年が経つそうですが、今、教員になつてよかったと思えるのは、どんなことがあった時ですか。

平 生徒が成長する瞬間に立ち会えた時です。

平 具体的にどのような時ですか。

平 今までやれなかったことが意識してできるようになった時です。

平 そのような成長をさせるにあたって、先生はどんな働きかけをしたのですか。

平 特別なことはありませんが、話をするくらいですかね。

平 どのような話をされるのですか。

平 こういうことが大切なんだという話をします。

平 ありがとうございます。

平 次に、いつから教員になりたいかと思っていましたか教えてください。

平 中学校の頃から教師の仕事に憧れていましたが、真剣に教師を目指し始めたのは、大学三年からです。

平 大学三年生の時に何か特別なことがあったのですか。

平 はい。大学三年の時に愛知教育大学附属岡崎中学校で教育実習を行い、この時にとてもすばらしい経験ができ、真剣に教師になりたいと思いました。

平 具体的に教育実習でどのようなすばらしい経験ができたのですか。

平 確率の授業でトランプを使って授業をした後に生徒が「数学がおもしろくなった」と言ったことです。数学のおもしろさを伝えることができたうれしかったです。

平 すばらしい経験ですね。ありがとうございます。

平 最後に、今後はどのような教師を目指そうとしていますか、ということがお聞きしたいのですが、その前に日比野先生が今までに目標としている先生はいますか。

平 はい。初めて担任をしたころにお世話になった山添先生です。

平 山添先生はどのような先生なのですか。

平 山添先生はどのような先生なのですか。

平 実際どのような場面ですか。

平 ミスをして報告した時です。

平 では、今後はどのような教師を目指されるのですか。

平 山添先生のように生徒や教員仲間と安心感を与える教師です。

平 ありがとうございます。

用意したインタビュー例（資料2）を比較させた。インタビュー例は、自分の考えが広まったり深まったりすることをねらい、まず「1質問が繋がっていること（よかったと思

うこと→具体例を引き出す→考えや思いに迫る)」「**2**答えやすい相手の経験などの質問から、相手の考えや思いを引き出す質問になっている」「**3**具体的な質問をし、Yes/No だけで答えられる質問を減らしてあること」という点を意識して作った。

生徒は自分のインタビューと教師のインタビュー例を比べ、自分たちのよい点と改善点を探し出すことで、より多くのことに気づくことができました。そして、そのよいところを発表しあい、似たような意見をまとめていくことで、見つけたよいところを6つのコツとしてまとめた(資料3)。資料を見ると、**1**はインタビュー例の「**1**質問が繋がっていること」から、**3**は「**2**答えやすい経験などの質問から、考えや思いを答えられる質問になっている」から、**4****5**は「**3**具体的な質問をし、Yes/No だけで答えられる質問を減らしてあること」から見つけ出していることが分かる。また、**2**や**6**は自分たちのインタビューの失敗から考え出したものである。このように、自分たちの失敗と教師が用意したインタビュー例を比較させることによって、生徒たちは「どのようにすれば“よいインタビュー”になるか」を考え出すことができた。

(資料3) 生徒のインタビューとワークシート

「これは質問と回答がある。インタビューは問いかけがある。」

① は先生の話を聞いていて思っていることか？「最初は興味はなかったけど、おもしろい話を聞くと、この話を聞かされていくのは、おもしろいかなって思った。」

② 相手の話を聞きながら、自分の話を聞かされていくのはどう感じましたか？「相手の話を聞きながら、自分の話を聞かされていくのは、どうも面白くない感じがした。相手の話を聞きながら、自分の話を聞かされていくのは、どうも面白くない感じがした。」

③ この職業について、どのような資格が必要ですか？「これからはこの職業についていくには、いろいろな資格が必要だと思います。」

④ 高校では活かした経験はありますか？「はい、将来は活かしたいです。でも、今のうちから、いろいろと経験はしたいです。」

★ インタビュー例と自分のインタビューと比較して、インタビューのコツを見つけよう。

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

インタビューの「良い」と「悪い」

① 中心的な質問
② 現在の「過去」未来
③ 意見を聞く時は「経験」から
④ 具体的に聞く(いつ、どこ、どのくらい)
⑤ Yes/No は少なく
⑥ 質問は1つにする

目録的、仕事を聞いたところが相手の経験やスキルがわかりやすかった。1つの質問で、話をまとめるところが、相手の話を聞きやすかった。最初に自分の話を聞かされたところから、相手の話を聞きやすかった。具体的な話を聞かされたところから、相手の話を聞きやすかった。おもしろい話をおもしろい話と聞きやすかった。おもしろい話をおもしろい話と聞きやすかった。おもしろい話をおもしろい話と聞きやすかった。

16つのコツ

事前に準備

手元にある返事

(2) 手だて2「インタビューの仕方を、手順を追って練習し習得させる」について

職場体験では生徒たちは、面識のない人々へのインタビューに対してかなり消極的になっていた。手だて1でインタビューのコツを習得しても、実際のインタビュー活動でその知識を活用することは難しいと思われた。その間にスモールステップとして「面識のある人へインタビューをする」という基礎的活用の場面を入れる必要があった。そこで手だて3として「校長先生へインタビュー」というテーマでインタビューの練習を行った。さらに、その基礎的活用につながる知識をより確実に習得させるために、手だて2として前時までに見つけた6つのコツを元に作った「インタビューをするための手順」をこちらから示し、生徒たちはそれにのっとってインタビューを作り上げていくようにした(次ページ資料4)。

先ほどの6つのコツの④⑤⑥はこちらから指示をしなくてもすぐにできたので、手順 ab でコツ①中心になる質問を考え、手順 c でコツ②③のどのような順番で質問したら相手が答えやすくなるかを考える。そして、手順 d で答えを予想させることで、より深く広く質問をすることができるのではないかと考え、このような手順にした（手順 ef は実践）。

- (資料4) インタビューへの手順**
- 手順 a 事前に職業について調べる
 - ↓
 - 手順 b 中心的な質問を考える
 - ↓
 - 手順 c 質問の順番を考える
 - ↓
 - 手順 d 質問の答えを予想する
 - ↓
 - 手順 e インタビューを聞きとる
 - 手順 f インタビューの練習をする
- ※手順 ef は同時に行う

ア 手順 a、b

手順 a では、まず生徒たちが「校長先生」という職業についての質問を事前に考えた。次に「校長先生」という職業について知識で答えられる質問については、教師がそれに答えた。

手順 b は手順 a で教師が答えられなかった校長先生の考えや思いに関する質問をすべて書き出し、学級全体で話し合った。出てきた質問の中で中心になるものを2、3個ずつ考えさせた。すると、「今どんな思いで働いているか」「校長になって大変だったことは何か」といったような、“その人の思いや考えに迫るような質問”を中心にする生徒と、「校長室の使い勝手はいいか」「何歳から校長になろうと思ったのか」などといった“興味本位で聞いてみたい質問”を中心に据える生徒に分かれた。

そこで、生徒たちに、なぜその質問を中心にしたのかを発表させた。すると“その人の思いや考えに迫るような質問”を中心にする生徒たちは資料5のように、「自分も大人になったら同じことを思うかもしれないから」「相手の本当の思いに迫れるから」「いろんな話が聞けそうだから」「ネットだと調べられない特有のものだから」といった理由を挙げた。それを聞いて、“生き方に迫る”とは“相手の考えや思いに触れる”事であるということを見出し、中心にする質問を書き換えた生徒もたくさん出てきた。生徒 A はもともと“興味本位で聞いてみたい質問”を中心に据える生徒だったが、資料6のように、もともとの「校長しかやらな

(資料5) 生徒が質問を選んだ理由

現在の理由 自分も大人になったら同じ事を思うかもしれないから。
過去の理由 二つ目の理由は自分も大人になって子どもと接するかもしれないから。
二つ目の理由は、今自分もなりたい職業があるから校長先生が中学校生になろうとしていたのかもしれないから。三つ目の理由は自分も将来思うことかもしれないから。
順番を決めた理由も最初に先生の今の心境も聞いて良かったから今の思いのままにこの思いを伝える。思いや考えに触れることで自分も大人になったら校長先生もなりたい。
ネットはいろいろ調べられないようなものを特長の質問がいいと思っただけ。
その人の経験や思いを聞いたほうがほっとするから迫れると思っただけ。
質問もつづけていくから。過去だと、よむとこも聞いて後
に、逆に三つという感じに付られる。
経験談をまとめた方がつづけてもいい。相手も答えやすいから。
選んだ理由
いろいろな話が聞けそうだから、将来仕事を決める時に役に立つ
と思っただけ。
相手の本当の思いが、ききたいと思ったから。

(資料6) 生徒 A の記述

【現在】
校長先生しかやらな
いから。
今の思い。
校長先生はいろいろ
変なことを
【過去】
ネットだと調べられない
特有のものだから。
よむとこも聞いて後
に、逆に三つという
感じに付られる。

い仕事はないか」という質問を赤ペンで消し、新たに「校長になって変わったことは何か」という、“その人の考えに迫る質問”に書き換えた。生徒たちに理由を発表させることで、どのような質問を中心にしたらよいかを考えることができた実例と言える。

イ 手順 c

次に、手順 c として、質問の順番を考えさせた。この時も生徒たちはなんとなく質問の順番を決める生徒と、明確な理由をもって順番を決める生徒とに分かれた。そこで、インタビューのコツ②③を振り返り、どういう順番で質問したらよいかを考えさせ、そう考える理由も発表させた。その結果「経験談は経験談でまとめる」「職業のことを先に聞いて、自分のことをあとにする」「最初に答えがはっきりしている質問をして、あとで自分の考えへとつなげることができるものにする」などといった理由があがった（資料 7）。そしてそれらを見て、生徒は自分の質問を書き直していった。資料 8 は生徒 B の質問である。右の鉛筆書きの部分は手順 c の最初に生徒 B が書いた質問である。「①校長になって今はどんな思いか」「②大変だったけどよかったことは何か」という順番になっている。それがほかの生徒の選んだ理由を聞いた後で資料の左のよ

(資料 7) 構成の理由

自分の将来のために必しも役立つそうなら選んではいけません。最初の質問は、なるべくこのエッセイのようなものにして、後から大切な質問にすることをしたい。質問もつなげやすくしたから、(過去だったら、よかったことを聞いた後に、逆に...)という感じにつなげられる。
 経験談がまとめた方がいい。相手も答えやすいのがいい。
 (手順 c) 質問の順番を考える) 答えがはっきりしている質問を先にする。

職業のこと → 自分のこと
 答えがはっきりしている
 よかったこと、大変だったこと → 経験談をまとめる

(資料 8) 生徒 B の質問 (左に書き直している)

現在
 ① 教師になって今は校長先生として働いていて今後はどんな思いですか
 ② 大変なこともあれば、いいこともあった。どんなことが大変だったか、そして、いいこともあったか

← 前

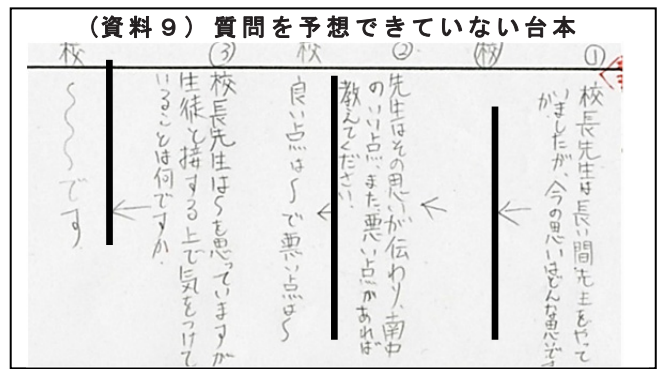
← 後
 3. 今の思いか
 2. 校長先生になって変わったことは何か

うに、校長先生が答えやすいと思われる経験に関する質問からより生き方に迫る校長先生の今の思いに関する質問へと順番になっている。これは生徒 B がほかの生徒の理由を聞く機会を設けたことによって起きた変化であると考えられる。

ウ 手順 d

質問の順番が決まったら、手順 d として質問の答えを予想させた。そうすることで質問の答えに対する切り返しを用意することができ、自分の考えを深めたり広めたりするインタビューになると考えたからである。生徒たちにも説明をしてこの活動を行ったが、多く

の生徒はその効果を実感できていない様子であった。そのため「なんて答えるか分からないから」といって予想しないで置いておく生徒も多くいた。授業中には「なんで答えを予想しないといけないの?」「予想するならインタビューの意味無くない?」という声も挙がっていた(資料9)。



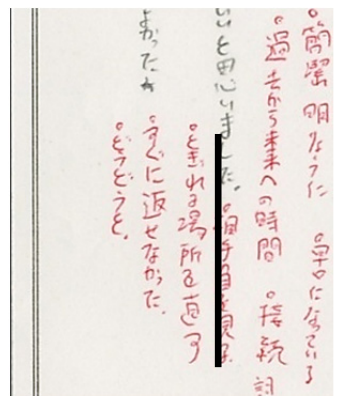
そこで手順dの効果を実感させるために、手順efとして校長先生にインタビューを行う前に、同じ内容のインタビューをクラス担任に行った。クラス担任へインタビューすることで、手順dがいかに有効であるかを考えさせるためである。そのインタビューの様子が資料10である(台本は資料9)。

(資料10) 生徒Cのインタビューの様子

- 生徒①：細井先生は長い間先生をやっていましたが、今の思いはどんな思いですか？
 先生①：「今の思い」ってどんな思いですか？
 生徒②：えっと…。今生徒とか授業で教えているときに思っていることです。
 先生②：思っていること？分かりました。体育なので、みんなが「出来た」とか「楽しい」とか言ってくると、こっちも「やったあ」って気持ちになります。
 生徒③：その思いが伝わって、南中のいい点または悪い点があれば教えてください。
 先生③：素直なので楽しいときは「楽しい」って言うので、「つまらないときは「つまらないな」って言うので、「つまらない」って言われたらこっちも「直さなきゃいかな」って思います。
 生徒④：細井先生は…生徒と接するうえで気を付けていることは何ですか？
 先生④：一人ひとりが「何を考えているかな?」っていうのを考えながら接しています。

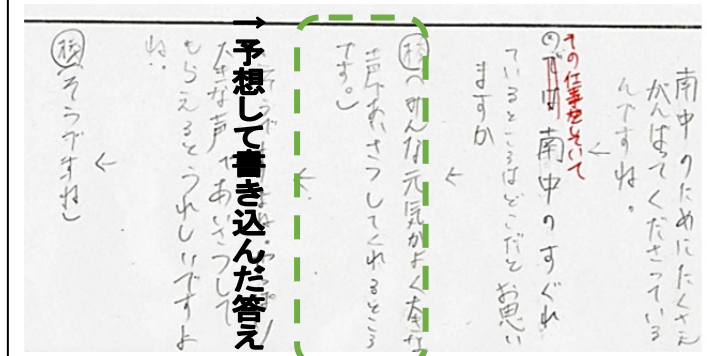
質問をしている生徒Cは相手がどのような答えをするのか予想が出来ていないので、先生①のように質問を聞き返されるとうまく対応できない。また生徒③のように先生の答えが自分の意図するものとずれた場合にもうまく対応できずに台本をそのまま読んでしまったり、生徒④のように削除したりするだけといった状態になってしまう。

(資料11) 担任インタビュー一振り返り(一部)



そのことに気付かせるために、インタビューが終わったあと、手順eで行った聞き取りを元に、今回のインタビューの良かった点と改善点を話し合った(資料11)。話し合いの中で「接続詞に気をつける」「もっと簡潔明瞭にする」など、様々な改善点が挙げられた。そして、「途切れる場所を直す」という意見が出たときに、なぜインタビューが途切れたのかを生徒Cに話させた。すると「自分の予想してない方向に話が進んでしまって途切れてしまった。」と答えた。その一言で、何人かの生徒は予想することの重要性に気付き、自分の質問原稿を見直し、質問に対する答えを書き込んでいった(資料12)。

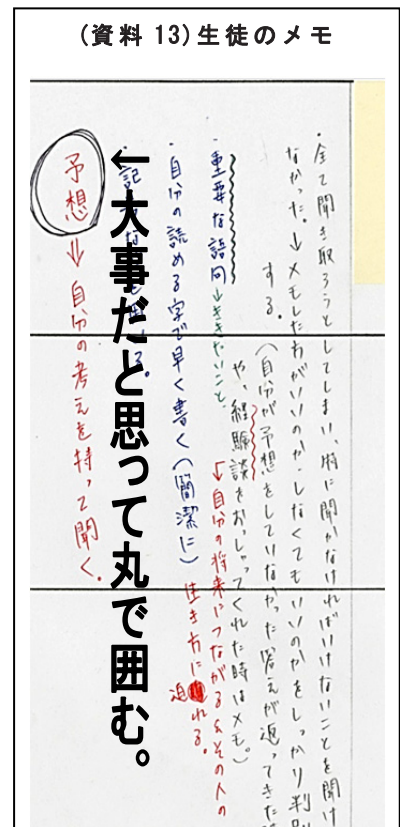
(資料12) 予想した答えを書き足した生徒の記述



また、「うまく聞き取れなかった」とい

う意見も多かったため、聞き取るときのコツも話し合った。「重要語句を聞きとることが大事だが、それができないのでしたらよいか。」と発問した。すると「早く書く」「記号などを用いる」などといった意見の中に、「質問を予想して自分の考えをもっておくことが大切だろう」という意見が出た。その意見を重要だと感じた生徒も多くいるようで、自分のメモを丸で囲んでいる生徒もいた(資料13)。この話し合いの結果、今まで生徒の中で曖昧であった手順d「質問の答えを予想する」の重要性を違う形でも感じとることができた。

ここまですて2「インタビューの仕方を、手順を追って練習し習得させる。」で行ってきたことである。手順を追って取り組ませ、それぞれの手順ごとに話し合いを設け、「なぜその手順が必要なのか」を考えることで、生徒A、B、Cのような自分の質問を書き直す生徒が出てきた。これは手順を追って練習することにより、手だて1で習得したインタビューのコツをより実感をもって習得することができたのではないかと考えられる。このことから、手だて2には一定の成果があったといえる。

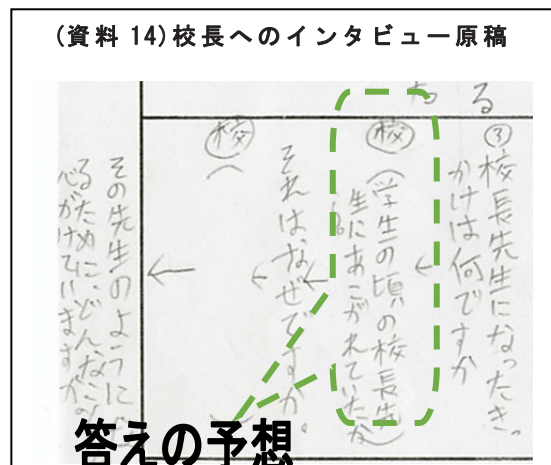


(3)手だて3「基礎的活用場面(校長先生へインタビュー)を意図的に入れその振り返りをする」について

この「校長先生へインタビュー」という基礎的活用場面の設定の目的は、いきなり面識のない人にインタビューをするにはハードルが高いだろうと考えたためである。実際に生徒たちは職場体験の振り返りに「もっと積極的に話しかけて質問すればよかった。」と書いており、面識のない人に対しては積極的にいけないという面をもっていることが分かる。そのために、「面識はあるが、あまり身近ではない人」へのインタビューをすることで、面識のない人へのインタビューのスムーズステップになるのではないかと考えたのである。よって今回は校長先生へインタビューをすることを目標に立て一連の活動を行ってきた。

そして、実際の校長先生へのインタビューはここまでの集大成と言えるものであった。

原稿は手だて2で習得した知識を生かしたものとなっていた。また質問に対する予想もしっかりと書かれていた(資料14)。また、次ページの資料15は、資料14の原稿を実際に質問したものである。比較してみると本番のインタビューでは校長の答えがずれても、台本通りではなく、別の言葉で質問をし、上手に切り返すことができていたことが分かる。これは、この手だて2によりインタビューのコツが習得されているのを証明すると同時に、手だて3によって自らその知識を選び使いこなしているということもできる。



またこの後、このインタビューに対する振り返りとして、担任のときと同じようにこのインタビューのよかった点と改善点を話し合った。一問一答形式の質問も減り、質問同士がつながり始めたことなどが良かった点、一部まだ同じような質問をしているというところが改善点として挙げられた。

この振り返りからわかるとおり、生徒たちは自分たちで問題点を探り出すことができるようになった。手だて1、2で習得したことをさらにステップアップした場で繰り返し活動を行い振り返らせるという手だて3の効果がここに出ていると考えられる。

また「校長先生へインタビュー」を目標にすることにより、生徒たちは大変意欲的に活動を行うことができた。インタビューを考える時も「どうしたら校長先生のことをもっと知ることができるか」と考え、さまざまな意見が出てきた。生徒に聞いても「校長先生の知らない部分を知ることができておもしろかった。」と話す生徒もいた。これは生徒たちにとって“校長先生”という関係が遠すぎず近すぎず、ちょうど学習意欲を掻き立てる立ち位置であったためと考えられる。これも手だて3の効果となった（資料15）。

この授業のあと、彼らは総合的な学習で東京分散学習の準備を進めた。我が校の東京分散学習では、東京で働く人にインタビューを行う。さらに一歩進んだ「発展的活用」になったと考えられる。（当日配布資料参照）

（資料14）校長へのインタビュー（抜粋）

生徒：校長先生になったきっかけはなんですか？
校長：校長先生になるためにはまず試験を受けなければいけないんですよ。（中略）だから試験に受からないと校長にはなれません。
生徒：なぜ校長先生になろうとしたのですか？
校長：なりたくてなったんじゃないんで（中略）だれかがならなきゃいかんので、教育委員会から「試験を受けろ」といわれまして。で、試験をうけてなりました。
生徒：どのような校長先生になることが目標ですか？
校長：君たちは2年間見てきてますけども、そういった校長先生です。

（資料15）校長先生にインタビュー



4 成果と課題

○成果

- ・手だて1によって生徒たちは「どのようにすれば“自分の考えを深めたり広めたりできるインタビュー”になるか」を考え出すことができた。こちらでインタビュー例を用意し、自分たちのインタビューと比較させるという手だては有効であった。
- ・手だて1で習得したインタビューのコツという知識を、手順を追って練習することにより実感をもって習得することができた。
- ・基礎的活用の場面（校長先生へインタビュー）を意図的に入れその振り返りをすることにより、自分たちで問題点を発見し直そうとするところまで成長することができた。

○課題

- ・今回の成果は多くの生徒に見られた。しかし手順を追って説明しても、職場体験と同じようにインタビューをしてしまう生徒がまだ見られた。手順の組み方やさらなるスモールステップなどの改善点があると考えられる。
- ・インタビュー前の原稿やインタビュー後の振り返りシートからは評価できるが、実際にインタビューしている様子を一人ひとり見ることは難しい。適切な評価について今後考えていきたい。